

ROTARY OPENS OPPORTUNITIES

ロータリーは機会の扉を開く

2020～21 年度年度

国際ロータリー会長 Holger Knaack



東京麹町ロータリークラブ

本日の例会プログラム

第9例会 2020.9.14 (#2283) 会場: 舞の間

例会ホスト・紹介係 佐藤君 会費係 乳井君

受付係 荒川君 飯嶋君

司会者 鄭君 ソングリーダー 吉田君

卓話「ワイン農場の経営」

(株)ルミエール代表取締役社長 木田 茂樹氏

紹介者 地引会員

前回の報告

第8例会 2020.9.7 (#2282) 会場: 舞の間

例会ホスト・紹介係 保科君 会費係 浅野君

受付係 秋山君 加賀君

司会者 鄭君 ソングリーダー 吉田君

卓話「検察捜査よもやま話」

元検事総長 笠間 治雄氏

紹介者 乳井会員

会長報告

- 1) 本日は、元検事総長の笠間様から、貴重なお話をいただきます。後程よろしくおねがい致します。
- 2) 菌会員の後継者として、守屋幸作様を新しいお仲間としてお迎え致します。皆様宜しくお願いたします。
- 3) 今月、80才を迎えられる中谷会員に、傘寿のお祝いをお贈りいたします。明日がお誕生日です。

幹事報告

- 1) 10月12日の中央分区ゴルフ予選会の登録料をお納め下さい。
- 2) 親睦委員会より、炉辺会のご案内を配布致しました。皆様お集まりください。
- 3) 例会終了後に、定例会理事会がございます。該当のかたはお残り下さい

ガバナー公式訪問 10月5日(月) 紀尾井町 RC との合同例会

10:45～11:15 会長・幹事との打ち合わせ(「AZALEA」控室)

11:15～12:15 クラブ協議会 理事、役員、各委員長 (「AZALEA」)

12:30～13:30 例会 (「鳳凰-東の間」)

例会終了後、紀尾井町 RC はクラブ協議会へとなります。麹町は、理事会開催

例会記録

会員総数 40名 出席会員数 30名
ゲスト 1名 その他 0名
ビジター 0名 事務局 2名
海外ビジター 1名 出席率 82.56%

8月24日 Make-up 後の

出席率 88.21%

ニコニコボックス

中谷会員:お誕生日(9/8) 傘寿

崎山会員:夫人誕生日(9/23)

齊藤会員:本日の理事会、宜しくお願
いたします。

飯嶋会員:本日より、守屋さんが入会
します。宜しくお願いたします。

次回予告

第10回例会 2020.9.28 (#2284)

会場: 舞の間

例会ホスト・紹介係 久保田君

受付係 地引君 鈴木君

会費係 秋山君

司会者 鄭君

ソングリーダー 吉田君

卓話

「鉄道が経験した東日本大震災」

日本ホテル(株) 代表的取締役社長

里見雅行氏(豊島東RC)

紹介者 若林君

RLI パートII 講習開催のご案内

RLIの講習も3年目となりました。この機会に出来るだけ多くの方々に研鑽をして頂きたいところですが、次のクラブを背負って立たれる**会長候補予定者**の方々や、**昨年度**の講習を受け損ねた方を優先に講習を行います。

日時: 2020年10月16日(金)9:00 登録開始 登録料:5,000円

会場: ホテルグランドパレス

消防業務について

麴町消防署署長 藤木 正治氏(8/31 卓話 青山元会員紹介)



消防署は、官公庁の中でも古い歴史を持っています。官公庁で一番古いのは明治2年に設置された小学校、次が明治4年の郵便局、明治5年の鉄道、明治14年の警察・消防と続きます。当時は内務省の中に警察と消防の機能があり、日本で初めて設置された6カ所の消防分署のうちの一つが、現在の麴町消防署です。

役所の仕事は変化しないと思っている方も多いのですが、実は時代とともに業務範囲を広げています。消防の一番の仕事は何かと聞かれたら、年配の方は消火活動と思うかもしれませんが、子どもに聞くと消防車より救急車のイメージの方が強いようで、現在の消防署のメインの仕事は救急なのです。

他にも、防火管理者の届け出の受理や消防用設備、危険物に関連した業務がありますが、発足当初はこうした業務の需要はありませんでした。しかし関東大震災以降、火事をいち早く知らせるための装置を、九段に本社がある能美防災株式会社の創業者が付け始めたのをきっかけに、消防署業務に火災報知設備の届け出・点検の業務が加わりました。

救急業務も、当初は火事で出たけが人のために用意されていただけでしたが、高度成長期になると労災や交通事故などが非常に増え、なかなか助け出せない人を救い出す救助隊が誕生しました。約50年前のことです。その救助隊が最初にできたのが、麴町消防署永田町出張所でした。ここ十数年で、大災害に対応するハイパーレスキューも創設されました。特殊任務を行う部隊で、例えば福島第一原発事故の際には、われわれのハイパーレスキューが現地に向かって原子炉の冷却を行いました。

救急業務も、当初は火事で出たけが人のために用意されていただけでしたが、高度成長期になると労災や交通事故などが非常に増え、なかなか助け出せない人を救い出す救助隊が誕生しました。約50年前のことです。その救助隊が最初にできたのが、麴町消防署永田町出張所でした。ここ十数年で、大災害に対応するハイパーレスキューも創設されました。特殊任務を行う部隊で、例えば福島第一原発事故の際には、われわれのハイパーレスキューが現地に向かって原子炉の冷却を行いました。

このように行政は社会のニーズを一つずつ拾って応え、職域を幅を広げています。特に消防は、皆さまの日々の暮らしをサポートするサービス業として存在しています。その点では、これから先もどのようなニーズが出てくるかによって業務が変わっていくこともあると思っています。

例えば平成の30年間でどれくらい変化したかというところ、ご存じのとおり、人口は都市部で増加しましたが、地方部では減少しました。その間の救急件数は、全国的には2.5倍も増えましたが、東京都では2倍にも達していません。伸びているのは地方なのです。また、搬送理由も変化しています。交通事故などによるけがで運ばれるイメージがありますが、実はこの30年間で事故による搬送割合は半分近くに減っています。救急件数増加の一番の要因は「その他」で、救急車を呼んだけれども搬送されなかった人たちが該当します。

このケースが30年前に比べて16倍に増えています。これは、救急車を呼びやすくなったからとも受け取ることができますが、本来運ばなければならない人の搬送が遅れてしまう要因の一つにもなっています。

火災も、1万人当たりの件数や全焼件数は平成の30年でもかなり減りました。しかし、地方ではあまり変わっていません。地理的な要因や消防力の要因もあるのだと思います。このように、平成の30年の間にも消防署業務の需要は増えたり減ったりしてきましたのです。

消防署の業務は、これからも社会の変化やニーズに合わせて変容していくでしょう。皆様のご商売もいろいろな変化を遂げられていると思いますが、消防署も先を読み、そのために必要な手をどんどん打っています。そして、現在のコロナ禍においても社会は大きな影響を受け、企業の倒産も数多く起こっています。消防署は倒産しないとはいえ、救急件数は昨年の3分の2に減りました。4~6月の救急件数は7割減、火災件数も3割減でした。非常にいいことではありますが、その分、社会の動きが止まっていると感じています。この状態を早く元に戻すことも大事なことです。消防署もこれまで社会の変化に合わせて職域を広げてきたように、今の環境変化にも対応していかなければならないと考えています。

クラブだより No.9

☆ 久しぶりの親睦会にどうぞご参加ください。

炉辺会 9月28日(月) 18:00~

会場: H・ニューオータニ内「Kato's Dining」

☆ 10月12日(月)は、中央分区ゴルフ予選会です。

当クラブがスポンサーとなりますので、通常例会はございません。

東京麴町ロータリークラブ

設立	1968年6月17日	〒102-0093
例会日	月曜日 12:30	千代田区平河町1-3-8
例会場	ホテル・ニューオータニ	平河町プラザ204号
		TEL:03-3263-9220
会長	須藤 仁	FAX:03-3263-9122
幹事	齊藤栄太郎	e-mail office@koujimachi-rc.jp
会報委員長	飯嶋 一晃	URL: www.koujimachi-rc.jp